

NPO法人わかもののみち

代表理事 土肥 潤也さんのメッセージ



まず、菊川市が「こども・わかもの参画宣言」を発表したことを喜ばしく思います。この4月にこども家庭庁が開庁し、こども・若者の意見反映や参画への取り組みが全国的に加速しています。そんな中、菊川は先駆けて今回の宣言をしました。これは全国の自治体のモデルとなる取り組みと言っても過言ではありません。しかし、重要なのはこれからです。宣言がただのスローガンとならぬように、たくさんの実践が生まれていくことが重要です。菊川市役所がその先導をしながら、地域全体でこども・若者が参画するまちづくりに取り組んでいくことを期待しています。きっと成果が出てくるのは、5年後、10年後という長いスパンです。「あの宣言が大きなスタートラインだったよね」と、未来に良い振り返りができるようにひとりひとりが参画していきましょう。



▲わかもののみちサミットの後、メンバーと事務局で記念撮影

宣言文の策定にあたっては、今年6月に市民協働センターが中心となり、高校生・大学生を含む若者当事者6人と、市民活動団体・高校教員・企業・行政関係課で「菊川市こども・わかもの参画協議会」を組織し、その内容について協議を重ねてきました。全5回の会議の他、若者版の宣言を作成するため、放課後や休日に集まって打ち合わせをするなど、積極的に活動を行ってきました。また、市内中学生、高校生への意識アンケートや、市内高校生によるワークショップを実施するなど、若者当事者の意見を、できる限り反映しています。

みんなで作り上げた宣言

大人と若者、互いに尊重

大人と議論することには、はじめは不安だったとメンバーは口をそろえます。ですが、回数を重ねていくうちに、若者の立場になつて考えてくれる大人たちが大勢いることを実感。お互いに意見を出し合い、議論を深めていきます。「私たちはもちろん、大人も宣言のことでわからない状態でスタートします。大人と議論することには、はじめは不安だったとメンバーは口をそろえます。ですが、回数を重ねていくうちに、若者の立場になつて考えてくれる大人たちが大勢いることを実感。お互いに意見を出し合い、議論を深めていきます。「私たちはもちろん、大人も宣言のことでわからない状態でスタートします。

ここからが本当の始まり

大人とこどもがお互いを尊重し、意見を出し合うことで、完成した宣言。市ではこの宣言を新たなスタートラインとして、若者たちの想いを形にする取り組みをさらに進めていきます。

した。そこから伝えやすい、伝わりやすい表現を探して、議論を深めていきました。「議論が白熱して、意見がすれ違うこともありましたが、そのおかげでいいものになりました」と、みんなで真剣に策定に取り組んだことを話します。そして、「子どもだけ、大人だけでなく、一緒に肩を組んで考えていけたのが良かった」と振り返り、宣言の策定をとおして、まちづくりに参画することを実感していました。

自分が活動することで、宣言の理念を広めていきたい



磯崎 心叶

(静岡県立大学
1年生)

宣言の柱となる指針を考えるのが大変でした。菊川市だけでなく近隣市や静岡県、全国で若者の参画が活発に行われるようになったらいいなという思いを込めた宣言です。若者の参加するまちづくりが進んでいる菊川市から宣言と共に、若者がまちづくりに関わる考え方が全国に広まっていくことを期待しています。

宣言を知ること、まちづくり活動にも興味を持って



平野 丈

(小笠高校
2年生)

自分は中学校の頃、自分の意見を周囲に伝えなくてつらい思いをしました。宣言には意見を伝えるための考え方が入っています。自分と同じような思いをしているこどもたちに宣言が届いてほしいです。宣言を知ること、まちづくり活動にも興味を持ってくれると思うので、宣言のことを知ってもらって活動したいです。

こどもからも意見を言いたいことを知って欲しい



増田 晴夏

(小笠高校
2年生)

どんな活動でも、こども同士・大人同士で行うことが多いですが、こどもと大人が協力することが当たり前になれば良いと思います。身近な友だちでも意見を言いたいけど言えない、活動があっても行けない人もいます。宣言を作った一人として、そういう当事者にもこどもからも意見を言いたいことを知ってほしいと思います。